

◆人生の達人セミナー◆



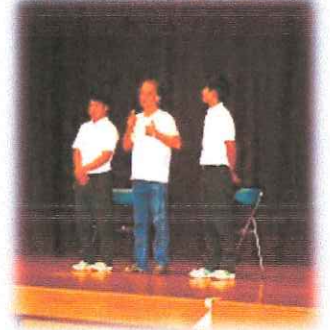
10月8日(火) 7校時のLHRに、海老原靖芳先生を講師に迎え、「人生の達人セミナー」を実施しました。海老原先生は、佐世保市出身で、笑いを作る放送作家として、ザ・ドリフターズ、コント赤信号、とんねるず、

ビートたけしとたけし軍団、三宅裕司とSETといった著名な方々のコント台本を書き、「コメディーお江戸でござる」「ドリフ大爆笑」「風雲たけし城」「志村けんのだいじょうぶだあ」「吉本新喜劇」など、長年、数多くの人気お笑い番組を手がけ、活躍してこられました。現在は「佐世保かっちゃって落語会」などを主催され、子どもたちに創作落語を通して自分を表現することの喜び、日本語の豊かさや奥深さ、方言のおもしろさなどを教えることに取り組んでいます。

当日は海老原先生のユーモアたっぷりのお話に、生徒も楽しく真剣に聞き入っていました。最後に2年生の吉田さんと田崎さんの2名が、事前に内緒で御指導いただいたコントを、全校生徒の前で披露しました。



← 秘密の練習風景
本番のコントの様子 →



<生徒の感想から>

- 海老原さんはとてもユーモアがあって面白い人だった。「志村けんのだいじょうぶだあ」は結構好きで見ているので、そんな番組を手がけた人だと知り驚いた。最も驚いたのはフリーで仕事をしているということだ。放送作家はどこかのテレビ局に所属しているものと思っていた。(1年)
- 講話の中で、時々女の子のマネをしたり、カメラに向かってポーズを取ったり、前の方に座っている生徒に話を振って場を和ませたり、最後にはサプライズで先輩方がコントを披露してくださったりと、真剣な話をしつつも飽きなくて、人を笑わせる仕事はいいなと思った。また、原稿なしで話していてすごいと思った。私も人前で発表する時などに、原稿だけを頼りにせず、頭の中でも話をまとめられるようになりたい。(1年)
- 海老原さんの熱意が伝わってくる講演だった。海老原さんは「人は変わることができる」と伝えてくれた。2年生はあと1年で就職試験が始まる。今何をしたいか決まっている人も決まっていない人も1年後はきっとたくさんの不安でいっぱいだと思う。そこで何かに挑戦してみたら自分の中で変わることがあるかもしれない。だから考えることは大事だし、何かに打ち込むことも大事だと思った。(2年)
- リラックスして聞くことができた。進路を考える上で「何をやりたいか」ではなく「何をやりたくないか」で考えるという発想が斬新で驚いた。そういう決め方もいいなと思った。「東京からも大阪からも遠い長崎にいたからこそどちらの味方でもない新しい視点で台本を作ることができた」という話を聞いて、この長崎という地方も悪いところばかりではないと、良いところに目を向けられるようになった。そして、この西彼杵高校でしか分からないオリジナルの笑いがあるというのも、とても良いことだと思った。(2年)
- 海老原さんは放送作家を引退しても、地元の佐世保に戻って子どもたちに笑いの楽しさを教えたり、地元を盛り上げることをやったりしていて、いつか私も海老原さんとは違う形で、何かにチャレンジしたり、仕事をやめても何かに取り組めるような人でありたいと思うことができた。(3年)
- テレビ番組を手がけた方のお話を聞いたのは大変良い機会になった。お話の中にあったオリジナリティが大切だと思った。人がどうだから自分はどうするではなく、自分が良いと思うことをすればいいんだなと思った。講演中も自由な振る舞いをされていたが、人生を楽しんでいる人だなと感じた。誰からも指示されず、自分のしたいことで生活できるのは本当にすごいと思う。これからどんな人との出会いがあるか分からないが、人と関わる時間を大切にしていきたい。卒業まであと半年もないが、クラスメイトや学校の人たちとの限られた時間の中でたくさんの笑いを作っていきたいと思った。(3年)
- 「人は変わるんだよ」という言葉を聞いたとき、私にも変わるチャンスがあるのかな、と思った。自分の短所を気にするばかりでなく、いいところを見直して、何か1つでもいい自分を見つけていけたらいいなと思います。今回は私にとってもこれからのためになったし、全員にとって意義のある話だったと思う。先生がおっしゃったことを忘れずに、少し意識しながら、これからの生活に生かしていきたい。(3年)